

使徒言行録 19 章 1 節～10 節。アポロがコリントにいたときのことである。パウロは、内陸の地方を通過してエフェソに下って来て、何人かの弟子に出会い、彼らに、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と言うと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と言った。パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と言うと、「ヨハネの洗礼です」と言った。そこで、パウロは言った。「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を受けたのです。」人々はこれを聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話したり、預言をしたりした。この人たちは、皆で十二人ほどであった。パウロは会堂に入って、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした。しかしある者たちが、かたくなで信じようとはせず、会衆の前でこの道を非難したので、パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせ、ティラノという人の講堂で毎日論じていた。このようなことが二年も続いたので、アジア州に住む者は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、だれもが主の言葉を聞くことになった。

アポロがコリントで宣教していた時、パウロは第三宣教旅行に出発し、以前宣教したガラテヤ、フリギア地方の内陸を通過してエフェソに来た。何人かの弟子たちに出会い、「信仰に入ったとき、聖霊を受けましたか」と聞くと、彼らは、「いいえ、聖霊があるかどうか、聞いたこともありません」と答えた。パウロが、「それなら、どんな洗礼を受けたのですか」と問うと、「ヨハネの洗礼です」と答えた。そこでパウロは、「ヨハネは、自分の後から来る方、つまりイエスを信じるようにと、民に告げて、悔い改めの洗礼を受けたのです」と言った。洗礼者ヨハネの名声はエフェソまで届き、「悔い改めの洗礼」を受けた弟子たちがいたというから、ヨハネの感化力はいかに大きなものであったかが分かる。

人々はパウロの言葉を聞いて主イエスの名によって洗礼を受けた。彼らの上に手を置くと、聖霊が降り、その人たちは異言を話し、預言をしたりした。聖霊を受けるとは、神を賛美し、神の恵みを証しすることである。この時、洗礼を受け、聖霊に与った者は 12 人ほどであったという。

パウロはユダヤ人の会堂に行き、三か月間、神の国のことについて大胆に論じ、人々を説得しようとした。ところが、いつものように、かたくなで信じようとはせず、会衆の前で激しく非難する者たちがいた。パウロは彼らから離れ、弟子たちをも退かせた。

会堂でのユダヤ人への宣教を諦め、ティラノという人の講堂で毎日論じた。この宣教が 2 年間も続いたので、アジア州に住む人々は、ユダヤ人であれギリシア人であれ、誰もが主イエスの言葉を聞くことになった。

パウロはエフェソで 3 年ほど宣教活動をしている。最も長い期間をエフェソで費やしている。そして、エフェソで最も大きな宣教の成果を上げている。弟子たちをエフェソ近隣の諸都市にも遣わし、宣教活動を広げている。『ヨハネ黙示録』に書かれている 7 つの教会は殆ど、エフェソ宣教時代に立てられた教会であろう。

「パウロに学ぶ トルコ、ギリシアの旅」に出かけた時、エフェソを訪ねた。大きな遺跡が広がり、当時はアジア州の首都として栄えていたことがうかがえた。ここをパウロが歩いたと思うと胸が高鳴った。